

今回の増刊号のテーマは産婦人科小手術&低侵襲手術である。まさに診療現場で多くの産婦人科医師がすぐに活用できる重要な外科的手技の「コツ」がぎっしりと詰まっている。

第1章「小手術・低侵襲手術の基礎知識」では、診療科を超えた外科手術のテーマを取り上げ、第2章「小手術の実際とコツ」、第3章「低侵襲手術の実際とコツ」では、豊富なイラストや写真・動画とともに実践的な内容を解説する。知識のアップデートとともに、日々の診療に即役に立つと考える。

本企画の背景には、科学技術の発展に伴う、素材や手術器具などを含む医療機器の進歩や革新的技術革命がある。1本の糸をとってしても、絹糸で結紮の練習をしながら外科医として育った医師にとっては、吸収糸の登場そのものが革命的であった。その後時代とともに、縫合糸の品質は急激な進化を遂げ、術野の状況に応じて多様な吸収糸の使い分けが可能となった。さらに、パワーソースの進化は、縫合糸の進歩とともに腹腔鏡やロボット支援下のいわゆる低侵襲手術の発展に直結している。医療技術の進化による患者への恩恵は計り知れない。また、より安全な医療技術としてのIVH挿入キットの進化、IVHポートやPICCの進化は、外来での化学療法を可能とし、担がん患者のQOL改善に多大なる役割を果たしている。麻酔関連の話題は、万が一過失があると訴訟につながる重要な部分である。そのため、特に自施設で産婦人科医師が麻酔を行っている場合は、安全な麻酔についての学びの機会になれば幸甚である。

また、各疾患・術式においては、子宮筋腫・子宮腺筋症・卵巣嚢腫や骨盤臓器脱に対するvNOTESといった比較的新しい低侵襲手術など幅広く解説している。

本書でもう一度基本に立ち返りつつ、効率的に手術関連の技術の進歩を享受していただけることを期待して止まない。

## 「産科と婦人科」編集委員会

横浜市立大学医学部産婦人科学教室 宮城 悦子

帝京大学ちば総合医療センター産婦人科 五十嵐敏雄

東海大学医学部専門診療学系産婦人科 石本 人士

東京科学大学大学院医歯学総合研究科茨城県地域産科婦人科学講座 寺内 公一